

2025 年 8 月 25 日

香川県知事 池田 豊人殿

一般社団法人 DOCOMOMO Japan

代表理事 鯉坂 徹

旧香川県体育館の解体方針ご再考のお願いと協力について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20 世紀の建築遺産の価値を重視し、それらを後世に継承することを目的の一つとしています。国際的な非政府組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement : モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織) の日本支部として活動しています。

旧香川県体育館は DOCOMOMO Japan 暫定リスト (注1) にあり、本会選定建築と同等の価値の高いモダンムーブメントの建築と考えております。2014 年には DOCOMOMO International のアナ・トストエス会長 (当時) らも視察し「建築家丹下健三の構造的特徴が表れた、世界に誇れる宝」として保存を強く推奨しております。

貴県におかれましては、2014 年に耐震改修の入札が不調となり改修を断念された後も、2021 年 7 月から 2022 年 2 月までサウンディング型市場調査による民間事業者の提案を求められる等、活用に向けた施策を進めてこられました。しかし、提案された 10 案が貴県の負担のないという条件にそぐわないことから、2023 年 2 月に県教育委員会から解体の方針が発表されました。一方、今回の旧香川県立体育館再生委員会の民間提案は、提案募集期間外とはいえ、県の負担がなく解体費約 10 億円が節税できるものです。

歴史的価値の高いモダン・ムーブメントの建築の再生は、一般の改修活用提案とは異なり、その建築の大切な価値 (オーセンティシティ) を失わないように進める必要があります。(注2) 意匠を損ねない形での耐震性確保、活用上求められる機能と需要、経済性などを慎重に検討し、投資の予算措置も含め、数ヶ月の検討期間では困難です。DOCOMOMO Japan は、興味を示す企業へのアプローチや多様な職能との協同作業からはじめ、具体的な再生提案までは、2~5 年要すると考えております。(注3) この度、サウンディング型市場調査の募集から 4 年が経過した後、新たな提案がなされましたことは、このプロジェクトが社会に浸透するとともに、堅実な検討が継続されてきた結果と捉えるべきであります。

貴県におかれましては、旧香川県体育館の解体を一旦延期され、この度の真摯な民間提案をいま一度検証されますよう切にお願い申し上げます。これまで進めてこられた解体の諸手続きが無駄になってしまうことも多々あるかと存じますが、貴重な文化遺産の継承と解体費用の約 10 億円もが不要になることから、そのメリットをご評価いただけないでしょうか。

国際組織の一員である DOCOMOMO Japan は、民間がリユースの手を上げたにも関わらず、世界から保存要望が出されている旧香川県体育館をこのまま解体してしまうと、県内の今後の世界的な文化遺産の評価にも大きな影響が生じるのではないかと心配しております。なお、DOCOMOMO Japan は、旧香川県体育館の活用再生に向けて、リユースの検証や保存活用計画の策定等、今後必要となる課題への支援・協力を惜しまず対応致します。

敬具

(注1) DOCOMOMO Japan 暫定作品リスト：選定建築を選定する母体となっている未公開リスト。現在、約 200 のモダン・ムーブメントの建築作品が掲載され、毎年、推薦された作品が追記されている。

(注2) アイントハーヘンソウル宣言：2014 年ソウル大会で、モダンムーブメントの建築の再利用 (リユース) を推し進めることをアイントハーヘン宣言に追記し、現在の DOCOMOMO の活動の基本方針となっている。

(注3) これまで 3~10 ヶ月程度の募集期間の末、応募がない、又は条件が合わないとして、DOCOMOMO Japan 選定建築の旧羽島市庁舎等が解体された。募集期間が短すぎると考え、募集期間の延長や解体の延期を要望してきた。

2025 年 8 月 25 日

香川県議会議員 谷久 浩一殿

一般社団法人 DOCOMOMO Japan

代表理事 鯉坂 徹

旧香川県体育館の解体方針ご再考のお願いと協力について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20 世紀の建築遺産の価値を重視し、それらを後世に継承することを目的の一つとしています。国際的な非政府組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement : モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織) の日本支部として活動しています。

旧香川県体育館は DOCOMOMO Japan 暫定リスト (注1) にあり、本会選定建築と同等の価値の高いモダンムーブメントの建築と考えております。2014 年には DOCOMOMO International のアナ・トストエス会長 (当時) らも視察し「建築家丹下健三の構造的特徴が表れた、世界に誇れる宝」として保存を強く推奨しております。

貴県におかれましては、2014 年に耐震改修の入札が不調となり改修を断念された後も、2021 年 7 月から 2022 年 2 月までサウンディング型市場調査による民間事業者の提案を求められる等、活用に向けた施策を進めてこられました。しかし、提案された 10 案が貴県の負担のないという条件にそぐわないことから、2023 年 2 月に県教育委員会から解体の方針が発表されました。一方、今回の旧香川県立体育館再生委員会の民間提案は、提案募集期間外とはいえ、県の負担がなく解体費約 10 億円が節税できるものです。

歴史的価値の高いモダン・ムーブメントの建築の再生は、一般の改修活用提案とは異なり、その建築の大切な価値 (オーセンティシティ) を失わないように進める必要があります。(注2) 意匠を損ねない形での耐震性確保、活用上求められる機能と需要、経済性などを慎重に検討し、投資の予算措置も含め、数ヶ月の検討期間では困難です。DOCOMOMO Japan は、興味を示す企業へのアプローチや多様な職能との協同作業からはじめ、具体的な再生提案までは、2~5 年要すると考えております。(注3) この度、サウンディング型市場調査の募集から 4 年が経過した後、新たな提案がなされましたことは、このプロジェクトが社会に浸透するとともに、堅実な検討が継続されてきた結果と捉えるべきであります。

貴県におかれましては、旧香川県体育館の解体を一旦延期され、この度の真摯な民間提案をいま一度検証されますようお願い申し上げます。これまで進めてこられた解体の諸手続きが無駄となってしまうことも多々あるかと存じますが、貴重な文化遺産の継承と解体費用の約 10 億円もが不要になることから、そのメリットをご評価いただけないでしょうか。

国際組織の一員である DOCOMOMO Japan は、民間がリユースの手を上げたにも関わらず、世界から保存要望が出されている旧香川県体育館をこのまま解体してしまうと、県内の今後の世界的な文化遺産の評価にも大きな影響が生じるのではないかと心配しております。なお、DOCOMOMO Japan は、旧香川県体育館の活用再生に向けて、リユースの検証や保存活用計画の策定等、今後必要となる課題への支援・協力を惜しまず対応致します。

敬具

(注1) DOCOMOMO Japan 暫定作品リスト：選定建築を選定する母体となっている未公開リスト。現在、約 200 のモダン・ムーブメントの建築作品が掲載され、毎年、推薦された作品が追記されている。

(注2) アイントハーヘンソウル宣言：2014 年ソウル大会で、モダンムーブメントの建築の再利用 (リユース) を推し進めることをアイントハーヘン宣言に追記し、現在の DOCOMOMO の活動の基本方針となっている。

(注3) これまで 3~10 ヶ月程度の募集期間の末、応募がない、又は条件が合わないとして、DOCOMOMO Japan 選定建築の旧羽島市庁舎等が解体された。募集期間が短すぎると考え、募集期間の延長や解体の延期を要望してきた。

2025 年 8 月 25 日

香川県教育委員会教育長 淀谷 圭三郎殿

一般社団法人 DOCOMOMO Japan

代表理事 鯉坂 徹

旧香川県体育館の解体方針ご再考のお願いと協力について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20 世紀の建築遺産の価値を重視し、それらを後世に継承することを目的の一つとしています。国際的な非政府組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement : モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織) の日本支部として活動しています。

旧香川県体育館は DOCOMOMO Japan 暫定リスト (注1) にあり、本会選定建築と同等の価値の高いモダンムーブメントの建築と考えております。2014 年には DOCOMOMO International のアナ・トストエス会長 (当時) らも視察し「建築家丹下健三の構造的特徴が表れた、世界に誇れる宝」として保存を強く推奨しております。

貴県におかれましては、2014 年に耐震改修の入札が不調となり改修を断念された後も、2021 年 7 月から 2022 年 2 月までサウンディング型市場調査による民間事業者の提案を求められる等、活用に向けた施策を進めてこられました。しかし、提案された 10 案が貴県の負担のないという条件にそぐわないことから、2023 年 2 月に県教育委員会から解体の方針が発表されました。一方、今回の旧香川県立体育館再生委員会の民間提案は、提案募集期間外とはいえ、県の負担がなく解体費約 10 億円が節税できるものです。

歴史的価値の高いモダン・ムーブメントの建築の再生は、一般の改修活用提案とは異なり、その建築の大切な価値 (オーセンティシティ) を失わないように進める必要があります。(注2) 意匠を損ねない形で耐震性確保、活用上求められる機能と需要、経済性などを慎重に検討し、投資の予算措置も含め、数ヶ月の検討期間では困難です。DOCOMOMO Japan は、興味を示す企業へのアプローチや多様な職能との協同作業からはじめ、具体的な再生提案までは、2~5 年要すると考えております。(注3) この度、サウンディング型市場調査の募集から 4 年が経過した後、新たな提案がなされましたことは、このプロジェクトが社会に浸透するとともに、堅実な検討が継続されてきた結果と捉えるべきであります。

貴県におかれましては、旧香川県体育館の解体を一旦延期され、この度の真摯な民間提案をいま一度検証されますようお願い申し上げます。これまで進めてこられた解体の諸手続きが無駄となってしまうことも多々あるかと存じますが、貴重な文化遺産の継承と解体費用の約 10 億円もが不要になることから、そのメリットをご評価いただけないでしょうか。

国際組織の一員である DOCOMOMO Japan は、民間がリユースの手を上げたにも関わらず、世界から保存要望が出されている旧香川県体育館をこのまま解体してしまうと、県内の今後の世界的な文化遺産の評価にも大きな影響が生じるのではないかと心配しております。なお、DOCOMOMO Japan は、旧香川県体育館の活用再生に向けて、リユースの検証や保存活用計画の策定等、今後必要となる課題への支援・協力を惜しまず対応致します。

敬具

(注1) DOCOMOMO Japan 暫定作品リスト：選定建築を選定する母体となっている未公開リスト。現在、約 200 のモダン・ムーブメントの建築作品が掲載され、毎年、推薦された作品が追記されている。

(注2) アイントハーヘンソウル宣言：2014 年ソウル大会で、モダンムーブメントの建築の再利用 (リユース) を推し進めることをアイントハーヘン宣言に追記し、現在の DOCOMOMO の活動の基本方針となっている。

(注3) これまで 3~10 ヶ月程度の募集期間の末、応募がない、又は条件が合わないとして、DOCOMOMO Japan 選定建築の旧羽島市庁舎等が解体された。募集期間が短すぎると考え、募集期間の延長や解体の延期を要望してきた。